

福祉サービス第三者評価総合コメント もくせい園

評価機関名 NPO法人ヒューマン・ネットワーク

特に力を入れて取り組んでいること(評価の高い点)
医療機関との連携を強化し対応することで利用者と家族の安心につながっている
利用者の高齢化を踏まえ、医療との連携強化を図った体制づくりに取り組んでいる。内科医および精神科医による訪問診療は月2回実施されており、施設看護師を中心に平時の健康管理が行われている。また、必要に応じて整形外科等の専門医を受診する際には職員が同行し、情報共有にも努めている。さらに、歯科医師、歯科衛生士、理学療法士による医療チームから、利用者の状態に応じて、食事時のポジショニング、食器類の工夫、とろみの調整、介助時のペース等に関する細やかな摂食指導を受け、個別支援が行われている。これらの取り組みの結果、利用者(家族)アンケート調査においても、100%が「良く対応している」と回答しており、適切な医療提供が安心感の醸成につながっていることがうかがえる。
利用者・保護者の声を大切にしたい意見反映の取り組みに努めている
保護者や利用者の声を大切に受け止めるため、意見箱の設置に加え、日常的な対話を通じた丁寧な聞き取りが行われている。利用者に対しては、定期的な相談日やオンブズマン会議を設け、安心して思いや要望を伝えられる機会が確保されている。寄せられた意見は支援内容の振り返りや改善に活かされ、利用者や家族が安心して生活できる環境づくりにつながっている。また、利用者調査の結果からは、保護者会が継続的に開催されているとの声もあり、利用者や保護者の視点を大切にしたい取り組みが行われている。
「働きやすい環境づくり」に継続的に取り組んでいる
時間外労働は全体として少なく、やむを得ず発生する場合も事前に管理者の承認を得る運用が徹底されており、業務量の見える化と適正配分が図られている。休暇も取得しやすい雰囲気があり、有給休暇はほぼ全職員が年間付与分を計画的に消化できている。外部の総合福利厚生サービスを導入し、余暇や生活面を支援する体制も整備されている。育児休業は対象者の取得率が高く、安心してライフイベントを迎えられる環境が確保されている。さらに、産業医による面談を全職員に実施し、希望や相談がある場合には優先的に対応する仕組みもある。日常的にも職員同士のコミュニケーションが活発で、相談や声かけが自然に行われており、心理的にも安心して働ける職場風土が形成されている。加えて、新たな人事評価制度の導入を進めており、より公平性と納得感の高い評価体制の構築を目指している点からも、継続的に働きやすい職場環境づくりに取り組んでいることがうかがえる。
さらに取り組みが望まれるところ(改善点)
利用者の尊厳を守る支援の実践と不適切な対応の撲滅へ、職員意識向上へ更なる取り組みを望みたい
身体拘束の廃止に向けた取り組みを計画的に進め、職員研修や日常の支援方法の工夫を通して、利用者の安全と尊厳を大切にしたい支援に努めている。身体拘束に関する記録やマニュアル、園長や上長、看護師等で構成される検討会議を定期的開催するなど取り組みを進めている。一方で、職員アンケートからは気になる発言や行動に対しての更なる取り組みを推進する必要性の声も届いており、職員相互の振り返りやロールプレイの継続などで、職員間での虐待防止に対する理解をさらに進めていくことを望みたい。

対話の機会を継続的に設けることで、理念理解の深化と支援の質の向上が期待される

法人理念や基本方針、職員行動規範が体系的に整備され、職員個々へ配布し周知する体制は整っている。事業計画の策定、人材確保・育成、業務改善についても、会議体や委員会を通じて組織的に運営されており、運営基盤は着実に構築されている。一方で、理念や行動規範は配布や読み上げ中心の運用となっており、内容の理解を深め、日々の支援実践と結び付けて考えるための話し合いや研修、振り返りの機会は十分とはいえない。経営理念は、職員同士が具体的な支援事例をもとに対話を重ねることで解釈が共有され、行動レベルでの実践につながる性質を持つ。今後は会議等の場を活用し、理念の意味を確認し合い、実践を振り返る対話の機会を継続的に設けることで、理念理解の深化と支援の質の向上が期待される。

地域とのさらなる連携を深めながら、地域貢献に向けた取り組みの推進が期待される

地域の美容室、コンビニエンスストア、飲食店等の社会資源を活用するとともに、自治会にも加入し、利用者が地域の一員として祭りやごみゼロ運動に参加している。今年度は利用者および保護者代表、自治会長、市役所職員の参加のもと、地域連携推進会議が初めて開催され、施設見学や取り組み内容に関する報告が行われた。次年度の同会議の開催においては、地域の福祉や行事、防災等に関する情報交換や、施設運営に向けた意見聴取が行われることが望まれる。また、毎月実施している防災訓練への地域住民の参加の呼びかけや、一般市民を対象とした障害理解のための講座の開催、行事における交流機会の提供等、地域とのさらなる交流・連携を深めながら、地域貢献に向けた取り組みが計画的に推進されていくことが期待される。

(評価を受けて、受審事業者の取組み)